

み

か

い

安住院便り (第41号)

平成30年8月1日発行

〒703-8236
岡山市中区国富3丁目1-29
住職 生駒琢一
TEL(086)272-2320 FAX(086)273-9327

弘法大師尊像

真言宗の宗祖である空海上人の御尊像を描いたものを、弘法大師御影（みえ）と呼びます。皆さんも良く述べるお姿です。

椅子にお座りになり、右手に密教の法具である五股杵を持ち胸の前に置き、左手は念珠を持たれています。



この尊像は、お大師さまのお弟子さんと一緒に描いたとされています。また、絵だけではなく、仏像として木像や石像などのお大師さまが多く見られます。当院にも、古い木像のお大師さまが、本堂の正面に向かって右に安置されています。五年後のお大師さま御生誕一二五〇年記念に向けて、修復を計画し、名古屋の仏師の下へ預けました。その年には、総本山善通寺に於いても、様々な記念事業が計画されています。また、ご案内を送らせて頂きますので、宜しくお願ひ致します。

お大師さまの御尊像のお顔は、絵でも像でも全て、少し異なつてゐるよう思われます。写真やコピーでは無いので、作者の心情が出てゐるのだと感じます。また、見ている私たちの気持ちでも変わつてくるのです。微笑んでおられる顔、怒つておられる顔、悲しんでおられる顔、様々です。常に私たちに語りかけ、励まして下さつていると感じる方も多いはずです。

四国霊場のお遍路さんの白衣の背中には、「同行一人」と書かれています。いつも、お大師さまに見守られているから、長い道のりの霊場巡りも頑張れるのではないかでしょうか。

私たち全て、一人では強い気持ちを持つて人生を歩むことは、困難です。家族や友達の支えがあつて、多くの見知らぬ人との縁があつて、可能のことなのです。そして、誰も周りにいない時でも、常に大師さまが守つて下さるとの思いを持てるることは、素晴らしいことなのです。

当院のお大師さまの御尊像を見ながら、そのような思いを、深めて下さるようお願い申しあげます。

南無大師遍照金剛

合掌

本堂が県指定重文へ

安住院の本堂が、平成三十一年三月付で、岡山県指定重要文化財に成りました。

岡山市内に現存する本堂のなかで、最古のものであり、

慶長六年（一六〇一）、岡山

藩主小早川秀秋公の再建によるものです。その棟札も残り、同時に指定となりました。

当初は、現本堂の地より少し南の靈園の付近にありました。但し、構造や部材は以前からのものを踏襲しておらず、桃山時代の特徴を残す、中世の本堂で、貴重な建造物として認められました。

（副住職長男の稚児姿）



（生駒 善勝）（その⑪）

高野山参拝

『消えずの火 第六回』

お照が、庵に休ませてあげた老人、安藤四郎右衛門は、昔の話として、妻に先立たれ幼子を置き去りしたことを、懺悔するのでした。

「二十年前の秋の夕暮れに、亡き妻の形見の着物の袖に、子を包んで、河内の国の大根尾山のふもとへ置き去りにし、縫い付けた短冊には

（千代までもゆく末をもつみどり子を…）」

お照は、思わず声をあげました。「父上様お照でござります。その子は、私でござります。」

お照は、今までの身の上を全て話して聞かせました。

その後、父も得度して唯心房となり、燈籠堂へ参り、お照の師僧である円蔵房に導かれ、お照の奉納した燈籠までたどり着きました。

人呼んで「お照の一燈」、眞実の光明は誰の心にも明るく輝いています。

（完）

今年四月九日・十日、高野山の参拝を、久しぶりに一泊二日で行いました。

お参りしました。女人高野とお照は、思わず声をあげました。

御本尊（大日如来、不動・降三世明王）落慶の直後で、間近で拝観させて頂ました。安間寺の多宝塔の御本尊と同じ形態です。

次に、真言宗の古刹、觀心寺に向かい、国宝の本堂や楠木正成のゆかりの地を散策しました。最後に、高野山壇上伽藍では、大塔・西塔・東塔の内部までの拝観に感動し、宿坊の普賢院にて、高野山の静寂につつまれ、旅の疲れを癒しました。

二日目は、副住職の案内で奥の院をゆっくりと参拝し、お勤めも出来ました。

高野山を下り、帰路の途中、安住院に縁のあつた与謝野晶子と、幹の妻である与謝野晶子と、千利休の記念館「さかい利晶の杜」も見学しました。

次回は、十一月七日（水）の予定です。是非ご参加下さい。

